

長期経過症例から学ぶ

審美と機能を両立した包括的歯科治療

東京都千代田区・加部歯科医院
加部聡一 Soichi Kabe

はじめに

審美修復治療は、単に審美性を回復させただけでは長期経過は望めず、Esthetic（審美）、Function（機能）、Structure（構造力学）、Biology（生物学的恒常性）の4要素すべてを達成して初めて長期的に安定した結果を得ることができる。

Functionへの配慮としては、神経筋機構や顎関節との調和、パーティカルサポート、アンテリアガイダンスの確立などが挙げられる。Structureには、フェルールや歯質の状態、支台歯の色調、形態、二次カリエス、元々装着されていたダウエルコアの状態などへの配慮が必要である。Biologyには、歯肉のフェノタイプ（periodontal phenotype）、根管治療の状態、修復物と歯肉の関係性が挙げられる（図1）。

本稿では、これら4要素を満たすために診査・診断、治療計画を立案し、治療を行った症例を提示したい。

症例の概要

患者は69歳女性、初診時2013年10月、2 コアごと脱離、5 クラウン脱離を主訴に来院された（図2）。全身の既往歴は高血圧と軽度の肝障害および高脂血症。歯科的既往歴としては7、8年前に治療をしたがそれ以降歯科にはかかっていないとのことであった。

咬合面のメタルの咬耗と問診からクレンチングやブラキシズムが疑われる。希望としては治療内容はお任せするが、入れ歯は絶対に入れたくないとのことであった。

●診査・診断

パノラマX線写真ではオトガイがやや左側に変位している（図3）。サイナスの問題は見られなかった。

デンタルX線写真では（図4）、7には歯根膜腔の拡大が認められ、2はコアの下から二次カリエスを呈しており、すぐにプロビジョナルレストレーション（以

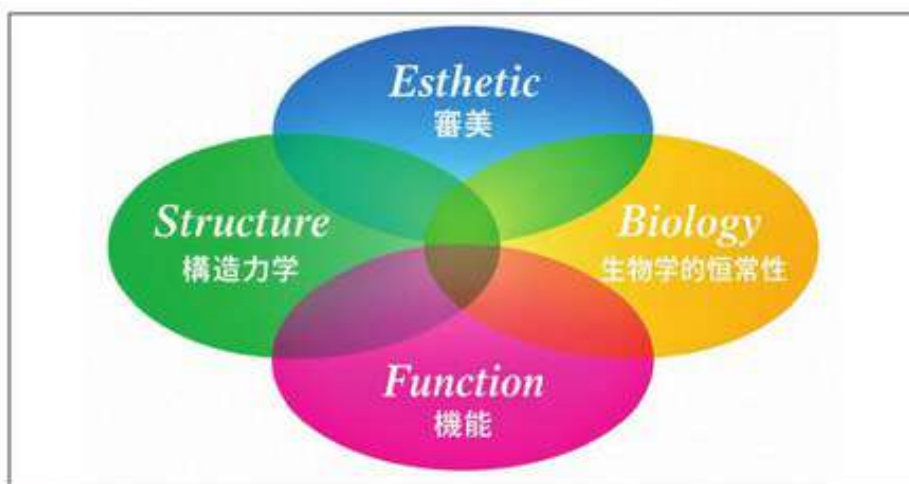


図1 長期的に安定した治療を行うには、Esthetic（審美）、Function（機能）、Structure（構造力学）、Biology（生物学的恒常性）の4要素すべてを達成させる必要がある



図10 審美診査のまとめ

顔貌正中に対し上顎中切歯の正中は右側に1.5mmシフトしている。上顎中切歯の切縁は右側はちょうど良いが左側は短く、咬合平面は右下がりである



図11 問題点の抽出

審美性においてはインサイザルエッジポジションは1.1が短くオクルーザルプレーンは右下がり。機能面ではグループファンクションで平衡側の接触があり、臼歯部のパーティカルサポートもとれていない。構造力学的な面から二次カリエスが多数歯に見られ、残存歯質に不安がある。生物学的恒常性においては、ジンジバルレベルが不調和、多数の失活歯であった

Extraoral	顔貌正中に対し上唇は右に変位、オトガイはやや左に変位、口唇線がやや右下がり、インサイザルフレームワークと下唇上縁不調和、上唇下縁が左下がり
Intraoral	顔貌と中切歯の正中の不一致、咬合平面・歯頸ライン・歯軸・歯冠外形の乱れ、オーバージェットとオーバーバイトはやや大きい
Teeth・Dental Arch	1.2切縁の異常な咬耗、2の挺出、下顎前歯の叢生と挺出、下顎前歯色調
Periodontal	全体的には軽度の歯周炎、7.7.は中等度歯周炎
Type of occlusion	グループファンクション、平衡側干渉
Restorations	全顎に渡る不適切な修復物
Radiographic	多数あり、顎関節や上顎洞の問題はない
Eathetic Disturbance	不良

図12 問題点のまとめ

り、臼歯部のパーティカルサポートもとれていない。構造力学的な面から二次カリエスが多数歯に見られ、残存歯質に不安がある。生物学的恒常性においては、ジンジバルレベルが不調和、多数の失活歯であった。

問題点のまとめ (図12)

問題点をまとめると、顔貌診査から、上唇は右側に変位、オトガイはやや左側に変位、口唇線がやや右下がり、インサイザルフレームワークと下唇上縁は不調和、上唇下縁は左側が下がっていた。

口腔内の診査からは顔貌と上顎中切歯正中の不一致や

咬合平面の乱れ、歯頸ライン、歯軸、補綴形態の不調和な状態が見られた。

オーバージェット、オーバーバイトは平均値からするとやや大きめの値であった。歯牙の診査からは、1.2の異常な咬耗がみられ、2の唇側傾斜と挺出、下顎前歯の叢生と挺出があり、下顎前歯の色調に問題があった。歯周組織の診査からは全体的には軽度の歯周炎で、中等度の部分は咬合の関与が疑われた。咬合の診査からはグループファンクションで平衡側の接触もあった。修復物の評価から全顎に不適切で、X線の診査からはエンドやペリオ、歯軸の傾斜などの様々な問題があり、審美的には不良な状態であった。